

詰将棋全国大会レポート（２）

詰パラ百号記念全詰連全国大会

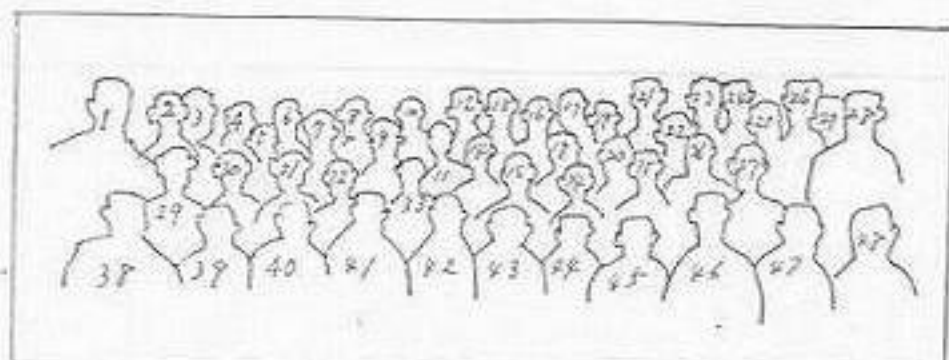
１９６４年５月

名古屋市 伏見荘にて

参加者 ５０名

詰将棋パラダイス １９６４年６、７月号より

写真説明



- 1 宗田龍章 (名古屋) 2 里貝義成 (奈良市)
- 3 佐野修次 (名古屋) 4 竹森米季 (大阪市)
- 5 酒村英二 (高松市) 6 長谷川民 (大阪市)
- 7 藤井國夫 (東京都) 8 深田義雄 (岐阜市)
- 9 服部彰夫 (一宮市) 10 酒井亮彦 (名古屋)
- 11 門脇芳雄 (東京都) 12 石沢孝治 (新潟市)
- 13 伊藤雄男 (大阪府) 14 清水一男 (名古屋)
- 15 木村利 (相模原市) 16 中西弘和 (伊勢市)
- 17 田名瀬英勝 (川崎市) 18 藤倉潤 (神戸市)
- 19 西本晴夫 (守口市) 20 大塚雅道 (神戸市)
- 21 石川幸雄 (江南市) 22 伴 東誠 (吹田市)
- 23 湯村光造 (西宮市) 24 長谷繁蔵 (大阪市)
- 25 中島利男 (長野市) 26 橋本守正 (名古屋)
- 27 高橋 守 (新潟市) 28 植田尚宏 (刈谷市)
- 29 横田進一 (泉大津) 30 和田清澄 (大阪市)
- 31 柴田篤彦 (堺市) 32 山本英士 (堺市)
- 33 安達実司 (宇部市) 34 梶間邦夫 (名古屋)
- 35 村山康徳 (松山市) 36 今井孝夫 (東京都)
- 37 成田忠雄 (名古屋) 38 鶴田繁見 (名古屋)
- 39 小林豊 (東京都) 40 岩木隆太郎 (大宮市)
- 41 井島 寛 (舞鶴市) 42 平瀬光明 (名古屋)
- 43 西垣 守 (名古屋) 44 石熊 丹 (名古屋)
- 45 井上栄二郎 (東京都) 46 岡田敏 (市原市)
- 47 井出忠毅 (市原市) 48 森田昌弘 (神戸市)

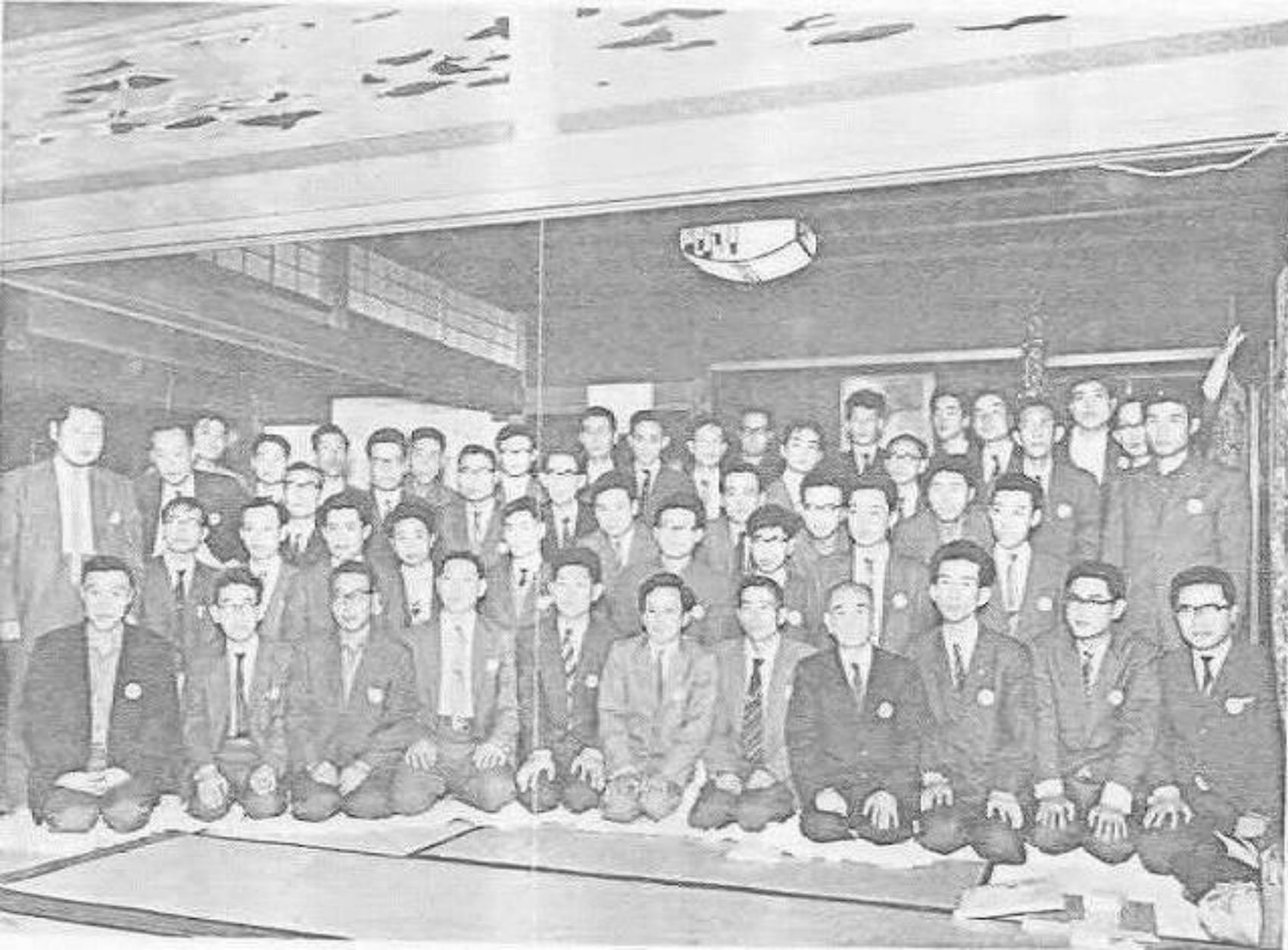
☆写真に写っていない人

中川清、岩井剛幸

一敬敬誌

◆◆ 64年 6月号 目次 ◆◆

- (懸賞) 表紙課題 (木村 詢) 1
- 結連全国大会開かる 1
- 1 2 1 2
- ☆高田懸賞の思い出出: 5 立棋客われ
- ☆真相: 6 ☆交通支隊 8
- ☆白鳥: 16 ☆大山は語る 16
- (入門科) たれでも詰むさ 18
- (懸賞) 入門科投票戦 (松竹梅) 20
- 明治は遠くなりけり (十一) 24
- (懸賞) 短篇二十局選 28
- (懸賞) 表紙作品コンクール 32
- (懸賞) スピード詰碁棋 35
- ☆思い出: 田辺重信・☆他山の石 36
- (懸賞) 必至堂 42
- 詰碁棋級位認定基準要綱 44
- (懸賞) 詰碁棋デパート 45
- ☆読者サロン 46
- (懸賞) 研究科新題 48
- 第十一巻第四号詰碁結果発表 50
- 棋史日誌・あとかき 表紙 4



☆蕨風のゴールデン・ウィーク、みどりも目にしほみ、うぐいすの声もきこえる伏見荘で、かねての予定の通り「詰バラ百号記念詰連全国大会」が開かれ、大盛況裡に無事閉幕しました。

☆詳細の状況は次号（七月号）に掲載します。

☆五月二日の前夜祭

左の面々出席（敬称略）

岩井則幸—津島市、橋本守正—名古屋、石川幸雄—江南市、井出弘毅—吉原市、中島利男—長野市、小林豊—同氏令息、門脇芳雄、今井秀夫—東京、岡田敏—布施市、西本晴夫—守

口市、村山康雄—愛媛、横田進—根大津市、里見義周—奈良市、井島寛、石黒昇—舞鶴市、和田清澄、長谷与民—大阪市、藤倉満、大橋雅道、森田昌弘—神戸市、柴田昭彦—堺、柴田龍彦、主幹—名古屋 以上24名
午後六時開始、打上げ午前三時ノ

☆五月三日、大会当日。

出席者は右の外、左の各氏

清水一男、酒井克彦、西垣守、荻野修次、中川清、成田忠雄、鹿間郁夫、早瀬公明—名古屋市、藤部彰夫—一宮市、中西弘和—伊勢市、植田尚宏—刈谷市

石沢孝治、高橋守—新潟市、窪田義雄—岐阜市、岩木錦太郎、井上栄二郎、藤井国夫—東京都、田名綱典勝—川崎市、木村詢—相模原市、伴康哉—吹田市、長谷繁蔵、竹森米春、伊藤純男—大阪市、湯村光造—西宮市、西村英二—芦屋市、安達栄司—宇都市、山本勝士—御所市、総計 五十名

午後一時スタート、午後十時終了、有志は午前三時まで棋、碁、詰棋。
☆五月四日、後夜？祭。

編集部来訪。

里見義周、中川清、横田進一、西本晴夫、長谷与民、橋本守正、安達栄司、清水一男の各氏。詰めたり指したり、いや賑やかなこと。全く好きな速中なり。（前頁写真は三日）

○日本に詰碁あり醜のほり 宜結

長夜の棋宴

五月二日、三日、四日—

☆前号で簡単に報道しましたが、結ペ
ラ百号記念の「全日本詰将棋連盟全
国大会」は、予定の通り、極めて盛
大且つ有意義に行われました。大会
に出席されなかった方々のために、
これから詳しく、誌上で紹介いたし
ましよう。

★日 時

五月二日 前夜祭

五月三日 大会当日

五月四日 後夜祭

☆場所 名古屋市中区城代町 伏見荘

★出席者 額不同、敬称略

(名古屋市) 清水一男、酒井克彦、

西垣守、荻野修次、中川清、柴田龍

藤、橋本守正、鹿間郁夫、成田忠雄

早瀬公明、鶴田諸兄

(津島市) 岩井則幸

(刈谷市) 植田尚宏

(江南市) 石川幸雄

(一宮市) 服部彰夫

(伊勢市) 中西弘和

(吉原市) 井出弘毅

(岐阜市) 藤田義雄

(相模原市) 木村均

(新潟市) 石沢幸治、高橋守

(長野市) 中島利男

(大宮市) 岩木錦太郎

(川崎市) 田名綱典勝

(東京都) 小林豊、井上栄二郎、藤

井国夫、門脇芳雄、今井秀夫

(堺市) 柴田昭彦

(大阪市) 長谷繁蔵、和田清澄、竹

森米春、長谷与民、伊藤純男

(舞鶴市) 井島寛、石黒昇

(吹田市) 伴康雄

(布施市) 岡田敏

(泉大津市) 横田進一

(守口市) 西本晴夫

(西屋市) 西村英二

(神戸市) 藤倉満、大橋雅道、森田

昌弘

(西宮市) 湯村光造

(奈良市) 里見義周

(御所市) 山本勝士

全詰連
全国大会

集いし同士五十八人

(松山市) 村山康雄

(宇部市) 安達栄司

以上50名。氏名太字は前夜祭に出席した人。尚、田宮克哉(芦屋)高田正延(三重)前藤浩(静岡)坂巻桂治(日立)小峯秀夫(茨城)氏らは出席を申し込んでおられましたが、急病または急用の為に出席不能となり、残念でした。

★前夜祭の状況

集った人23名。予想以上の盛況でした。午後六時開始。簡単な自己紹介の後、詰バラ、詰連の発展策について熱心に討議しました。その熱心な論議を聞いてみると、詰バラ発展の原動力此処にあり、としみじみ感じられました。特に、井出弘毅氏から初心者吸引について有益な意見が出ました。森田昌弘氏も大賛成。できる限り早く具体化する事となりました。それから和やかに懇談会、岩井則幸氏は祖母が死去され、三日葬儀

のため、前夜祭のみ出席された。

終って、有志数名は「八丁」へ。打ち上げは午前二時半。

★大会の状況

天気予報はガラリと外れ(珍らしくもなし)、痺くような五月晴れ、鯉のぼりが泳ぎ、矢車がカラ／＼と軽く鳴る。新緑が目にしみ、鳥かごの中のウグイスが喉く庭に面した五十帖の伏見荘の大広間。

午後二時開会。

①開会の辞 私より

②議長選出

大宮市の岩木鶴太郎氏を選出

③委員会自己紹介

私より一人一人指名し、発言席に出て頂いて自己紹介をしていただきました。いつものことながら十八十色それぞれ個性を発揮して発言されました。極めて意義深い一時間でした。(この自己紹介と私のあいさつは、テープに録音してあります。御希望

の向きには貸し出す用意あり。)

④祝辞祝電の披露

祝辞は里見義周氏代読。

「詰将棋バラダイス誌が通巻百号を迎えたのを祝して、全日本詰将棋連盟の全国大会が開催されましたことをおよろこび申し上げます。

私もアマチュア時代から詰将棋を好み、駄作をひねり出して、かつての詰バラに掲載されたこともあります。専門家となって以来は対局が中心となり、新聞雑誌の需めに依りて短篇の作図ばかり手がけておりますが、アマの皆さんの野心的な長篇を拝見して、もう少し暇があったらと思わないでもありません。その点書の専門家は看寿にせよ宗看にせよ、立派な図式を遺しており、或意味ではうらやましい次第であります。詰将棋は忙しい現代生活において、精神的な糧を与えてくれる数少ない健全娯楽の一つであり、この道に同

好の故を以て一堂に会せられることは、大いに意義のあること、私も同好の一人として本日の大会が盛大に行なわれるのを祈って止みません。今後もこの道を通じて、健康にして深遠な棋道の研究にいそまれるよう希望いたします。

全詰連と詰パラの発表をねがいつつ、種々な祝辞を申し上げます。

八段 二上 達也

「風薫る五月の佳き日に全詰連大会の開催を先ずお喜び申し上げます。

当然愚生も参加致さねばならず、又その積りで居たのですが、老父が生死の境にあり、それを推して赴く事は不可能ではないまでも、そこまで踏み切れません。栄えある看寿賞受賞者として何とも申訳けなき次第ながら、事情御諒察下さい。大会の盛大を心から祈ります。

黒川 一郎

「鶴田さん、おめでとう。」

思えば紳棋会から全日本詰将棋連盟に至るまでの道は遠かった。しかも助げの多い難路ではあったが、あなただのひたむきな情熱は、ついに挫折することなく、異例の詰専門誌たるパラダイスとして、ここに通巻百号を迎えたのだ。そして、われら詰マニアにとつては、まさに天国に遊ぶ思いをさせてくれる本誌も、あなたにとつては時に地獄の苦しみを味わせるものであったかも知れないことを、われらは深く肝に銘じておくべきだ。

この天国にとる法燈の火を、この上とも絶えさせぬ為にも、あなたに一層の御自愛をお願いすると共に、重ねて心からのお祝いを申し上げます。おめでとう、鶴田さん。

橋 二 豊

「薫風さわやかな五月この日、ここに全詰連全国大会の開催を心から祝福致します。北から南から、遠路は

るばる詰棋の友が相集い、看寿賞の表彰式について、共に語り、指し、飲む、なんとまた楽しからずや。ああ想うだに心は躍り、身も躍る。されど連日の多忙に加えて、やや過労気味の我は、ここ暫らく静養の必要あり、甚だ残念ながら欠席せざるを得ず、まことに切齒扼腕の思いあるも、かくなる上は古図式全集の達成に邁進し次回の大大会を期す。諸賢の御活躍を期待し、ここに祝辞を贈ります。

福山 日野 秀 男

「皆さん今日は。

詰パラ百号記念、全詰連全国大会の開催をお祝い申し上げます。

一口に百号と言いますが、約十年の歳月、年々歳々人も変わっています。ただ変わらないのは：頑固じじいと呼ぶ鶴田主宰のみでしょう。

旧パラ時代を知り、更に復刊後のパラ、これを僕は中パラ時代と呼んで

いますが、更に新パラ：僕も相当古くなつたもんです。実は今度は僕もこの大会には参加する積りだったのですが、まだ病院暮らしの身の上に加えて、近頃詰将棋なんかどっちでもなつて心境になつていたので、残念ながら出席出来ませんでした。

詰棋界も空前の大型時代に入り、我々老兵は消え行く運命でしょうし、またそうならなければいけないと思います。ここにお集りの皆さんを始め、各氏の今後の活躍をお祈りしてごあいさつに替えます。

北原 義 治

「パラ百号記念全国大会にお集りの皆様へ、遠く播磨路より謹んで御あいさつ申し上げます。

顧みますと29年8月、40ページそこそこの、お世辞にも立派とは言えぬ復刊第一号に接して以来、約10年の月日が流れています。

此の小冊子の道程は決して安易なも

のではありませんでした。

特に33年春より34年夏迄の長い断層は我々にとつて苦痛でさえあったのです。期日は来てもパラは来ず家の前を素通りして行く赤い自転車をうらめし気ににらみつけた事が何回あった事でしよう。

それらを乗り越えての今日、此処に百ページの百号を手にした感慨は、主幹ならずとも一入のものがあると思えます。それに費やされた主幹の努力、それを側面から支援された有志の汗に対し、心よりお礼申し上げます。

世はあげての消費ムード、それにならつての快楽主義がはびこる今日、健全娯楽として青少年に働きかける詰棋の役割は大きいものがあります。詰連も結成以来二年、個人作品集の発刊などで着々成果を上げつつありますが、今後は広く社会へのPRも積極的に行い、前向きな姿勢で進ん

で頂きたいと思えます。

記念すべき百号ではありますが、パラとしては一つの道標にすぎません。二百号、三百号、パラは永遠のものであつてもらいたいと思うのは僕一人ではない筈です。

今後共奮突に発展を旨指し、自他共に許す健全野党誌への生長を、諸賢と共に期待したいと思えます。最後に主幹の健康を心よりお祈り致します。

加古川にて 小西 逸生

左の各氏より祝電あり、主幹より披露されました。

東京 黒川一郎、愛媛 宮本兼利

札幌 山田修司、柏川悦夫、

東京 古味明、東京 伊藤三雄

東京 福田桂士 以上七氏

③看寿賞受賞式

長岡賞 東京 黒川一郎氏

中岡賞 東京 門脇芳雄氏

短篇賞 札幌 柏川悦夫氏

黒川氏は不審の為、門脇氏に代って受領してもらう。議長より表彰状と記念品を授与。柏川氏は遠方のため郵送しました。

④受賞者あいさつ

受賞者を代表して、門脇芳雄氏より

「一層の精進を誓う」

旨のあいさつがありました。

⑦主幹あいさつ

約三十分に亘り、詰速発足以来の状況報告、詰バラの現状分析と将来への展望、詰棋界の発展などにつき申し述べました。(幸い、アクビをすするような人は一人もありませんでした。感謝します。)

⑧各小委員会構成

委員長は互選

(1)検討者感謝委員会 藤倉 謙氏

(2)詰連法人化委員会 小林 豊氏

(3)詰バラ発展委員会 西村英三氏

⑨小委員会々談

この間を利用して「リレー将棋」対局がありました。これを紹介しましょう。

●リレー将棋

三人づつに別れ、一人が40手づつ抱し進める形式(登坂順)

●ツメ軍

井島寛、西木晴夫、里見義周

●バラ軍

山本勝士、横田進一、長谷与民

開始 五月三日午後3時50分

●7大歩○8四歩●1六歩○3四歩

●6六歩○6二銀●7八銀○5四歩

●9六歩○9四歩●6八飛○8五歩

9	8	7	6	5	4	3	2	1
香	桂	銀	飛	玉	金	銀	桂	香
香	桂	銀	飛	玉	金	銀	桂	香
香	桂	銀	飛	玉	金	銀	桂	香
香	桂	銀	飛	玉	金	銀	桂	香
香	桂	銀	飛	玉	金	銀	桂	香
香	桂	銀	飛	玉	金	銀	桂	香
香	桂	銀	飛	玉	金	銀	桂	香
香	桂	銀	飛	玉	金	銀	桂	香
香	桂	銀	飛	玉	金	銀	桂	香

●ツメ軍 なし

●7七角○52金右●4八玉○1四歩

●3八玉○4二玉●6七銀○5三銀

●8八飛○3二玉●2八玉○6四歩

●3八銀○42銀上●58金左○3五歩

●4六歩○3三銀●4七金○3四銀

●7五歩○6三金●7八飛○4二金

●9七香○6五歩●同歩○77角成

(ここで選手交代)

●6三金、7八飛は疑問手、65同歩は

疑問手、6八飛と指す所。

●77同歩○4四歩●7六飛○3三桂

●7八銀○2四歩●8六歩○9二角

●7七桂○8六歩●8三歩○同歩

9	8	7	6	5	4	3	2	1
香	桂	銀	飛	玉	金	銀	桂	香
香	桂	銀	飛	玉	金	銀	桂	香
香	桂	銀	飛	玉	金	銀	桂	香
香	桂	銀	飛	玉	金	銀	桂	香
香	桂	銀	飛	玉	金	銀	桂	香
香	桂	銀	飛	玉	金	銀	桂	香
香	桂	銀	飛	玉	金	銀	桂	香
香	桂	銀	飛	玉	金	銀	桂	香
香	桂	銀	飛	玉	金	銀	桂	香

●ツメ軍 歩

▲ 6一角○ 8二飛▲ 7四歩○ 4三銀
 ☆ 4四歩はギモン。86歩、同歩、同飛
 87歩、82飛で、先手の飛を封じて後
 手優勢。9二角は悪手、6二金がよ
 い。7八銀は好手。8三歩は悪い。
 8五歩と打つべし。案だったのに。

9	8	7	6	5	4	3	2	1
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲

▲ ツメ軍 なし

▲ 73歩成○ 同 桂▲ 8三歩○ 6二飛
 ▲ 43角成○ 同 金▲ 8六飛○ 8五歩
 ▲ 7六飛○ 7五歩▲ 同 飛○ 8六角
 ▲ 7六飛○ 97角成▲ 7四歩○ 7五歩
 ▲ 73歩成○ 同 金

9	8	7	6	5	4	3	2	1
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲

▲ ツメ軍 銀桂歩

▲ 6六飛○ 8八馬▲ 7九歩○ 7四金
 ▲ 7一銀○ 6三飛 (80手)
 ▲ 82銀成○ 7六歩▲ 92成銀○ 77歩成
 ▲ 5二角○ 7三飛▲ 82歩成○ 6三歩
 ☆ 8八馬では8三角も活用したい。

5二角は好手。82歩成も里見氏の実
 力を示す落ちついた好手。
 6三歩はしぶい手、長谷氏の実力の
 程を示した。
 さて、いよいよこれからが終盤の面
 白い場面。

9	8	7	6	5	4	3	2	1
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲

▲ ツメ軍 桂

▲ 61角成○ 7五金▲ 7二と○ 7四飛
 ▲ 6二と○ 7八と▲ 6三と○ 6六馬
 ▲ 5二馬○ 4二金☆ 太字は妙手。

9	8	7	6	5	4	3	2	1
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲

▲ ツメ軍 桂歩

▲5三馬〇同 金銀同 と〇6七馬
 ▲5六歩〇2五角▲4三銀〇2二玉
 ▲4二と〇3一香

▲3四桂〇1三玉▲3一と〇4九馬
 ▲同 銀〇6八飛▲4八金〇7二飛
 ▲3二と送百十七手にてツメ軍勝。
 終了5時45分

☆金銀桂だけで後手の玉は寄ってしま
 いました。ミノ囲いの強さをまざま
 ざと見せつけられました。

◎記念写真撮影

◎懇親会

ここで会場を二階大広間に移し、懇
 親会に入ったが、開宴に先立ち、
 ◎小委員会の結果報告あり。

特に藤倉氏より、検討係の「奇想天
 外氏」及び稲葉主幹に対し「感謝状
 」を贈呈する事に決した旨報告あり
 席上カンパにて、両人に記念品を贈
 られる事となりました。私に対して
 の分は恐縮ですが、折角の御好意故
 ありがたく頂戴する事としました。
 (検討係への感謝状)

◎感謝状

奇想 天外 殿

貴方は労のみ多くして酬われるとこ
 ろ極めて少ない詰将棋作品の検討と
 いう難事業に献身従事されること五
 年有余、宿願と戦われつつもひたす
 らに縁の下の力持ちとして、日夜努
 力されて居られる事は、詰将棋作家
 はもとより余日本詰将棋連盟として
 満腔の敬意を表し、衷心より感謝を
 捧げるところであります。

今後も自重自愛され詰棋界一將の発
 展の為御尽力下さる様お願い致しま
 す。詰将棋パラダイス誌百号発刊に
 際し、茲に記念品を贈り深甚の謝意
 を表します。

昭和三十九年五月三日

全日本詰将棋連盟

◎席上懸賞詰将棋

二上八段から祝辞を頂きましたが更
 に席上懸賞の新作を一切おねがいし
 た所、快諾、左の一駒を贈られまし
 た。衷心より感謝します。

暗算にて解答競技の結果、約30氏よ
 り正解提出あり、抽選の結果、左の
 二氏に長山敬之助氏提供の賞(輸出
 用灰皿)を贈りました。

小林豊、森田昌弘

★★懸賞出題★★

右出題を懸賞とします。同夜出席者は解答を御遠慮下さい。

☆締切 七月末日着まで

☆正解者多数の場合は抽選で三名の方に「全国大会記念タオル」一本づつを贈呈します。

☆懇親会は極めて和気あいあいと歓声をひびかせながら午後10時閉幕となりました。

⑩かくて、名残りを惜しみつつ散会。☆熱心家は「八丁」に移り、飲み且つ指して、お開きは午前3時でした。一泊粗も、夜おそくまで、賑やかに指したり詰めたりだった由。

同夜一泊者は二十数名でした。

★寄贈

左の各氏より次の通り寄贈あり。

君寿賞楯 東京 伊藤 三雄
席上詰棋賞品 千葉 長山敬之助

金一封 埼玉 岩本錦太郎

金一封 新潟 中村 五郎

金一封 福山 日野 秀男

金一封 神戸 藤倉 満

拡声装置等 名古屋 橋本 守正

板 盤 大阪 長谷 繁蔵

ペンタッチ 芦屋 西村 英二

銘 酒 舞鶴 井島 寛

銘 酒 神戸 森田 昌弘

★後夜祭(?)の状況

五月四日、朝早く、編集部へ里見義周、中川清の両氏来訪。両氏が掃られると入れ違いに

横田進一、西本晴夫、長谷与良、安達栄司、清水一男、岩井則幸、橋本守正

の諸氏来訪。また夕景まで。詰めたり指したりで、全く好きな人達です。流石の私もイササカ洩れしました。しかし、心から楽しい三日間でした。各位に厚くお礼申上げ、報告を終わります。

☆☆大会出席者感想☆☆

☆☆黒川一郎氏の不参加は一寸残念でしたが、そのかわりに門脇芳雄氏の参加があり、いろいろな有意義な御意見も拝聴出来、本当によかったと存じました。 宇部市 安達 榮司

☆☆全国の詰棋人を目の前に見、有名作家を拝見して、想像していた通りの人達で、又一層詰棋への情熱をかき立てられました。それにしても、主幹のパラへの熱意を改めて認識致しました。一口に百号といっても仲々のイバラの道だったと百号にありましたが、此の点よく推察されます。十年前とは打って交っての隆盛振りはよろこばしい。芦屋の田宮克哉氏津島の岩井則幸氏に对面できず、君寿賞の黒川氏の不参も残念でした。しかし、植田尚宏氏、服部彰夫氏、柴田昭彦氏に会えたのは、せめてもの慰めでした。名古屋 西垣 守

★右以外は省略します。あしからず。